

製品名: CtBP2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09493**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	49kDa

抗原情報

遺伝子名	CTBP2
別名	CTBP2; C-terminal-binding protein 2; CtBP2
遺伝子 ID	1488.0
SwissProt ID	P56545
免疫原	抗血清はヒト CtBP2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 396-445

背景

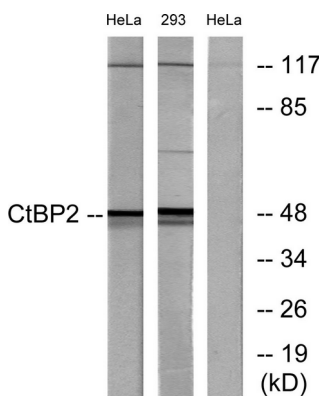
この遺伝子は、2つの異なるタンパク質をコードする代替転写産物を生成します。1つのタンパク質は転写抑制因子であり、もう1つのアイソフォームはシナプスリボンとして知られる特殊なシナプスの主要構成要素です。どちらのタンパク質も、NAD+依存性 2-ヒ

ドロキシ酸脱水素酵素に類似した NAD⁺結合ドメインを有しています。3'非翻訳領域の一部を用いて、この遺伝子を染色体 21q21.3 にマッピングしましたが、ゲノム上の他の場所にも同様の遺伝子座が存在する可能性が高いことが指摘されています。BLAST 解析により、この遺伝子は 10 番染色体に存在することが示されています。この遺伝子には、2つの異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2014 年 2 月]、機能: 多様な転写調節因子を標的とするコリプレッサー。アイソフォーム 2 は、おそらく特殊なシナプスの足場として機能する。、PTM: アイソフォーム 2 は、DNA 損傷時に ATM または ATR によって Thr-179、Ser-181、および Ser-185 がリン酸化される。HIPK2 による Ser-428 のリン酸化は、プロテアソームによる分解を誘導する。、類似性: D-異性体特異的 2-ヒドロキシ酸脱水素酵素ファミリーに属する。、サブユニット: アデノウイルス E1A タンパク質の C 末端と相互作用する。CTBP1 および CTBP2 とホモ二量体またはヘテロ二量体を形成できる。HIPK2 と相互作用する (類似性による)。PNN、NRIP1、および WIZ と相互作用する。、組織特異性: 普遍的に存在する。心臓、骨格筋、脾臓に最も多く存在する。、

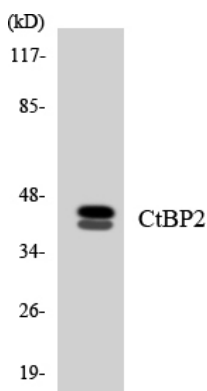
研究分野

WNT、WNT-T 細胞、Notch、がんにおける経路、慢性骨髄性白血病、

画像データ



CtBP2 抗体を用いた HeLa 細胞および 293 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



CtBP2 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解物のウェスタンブロット分析。

CtBP2 ポリクローナル抗体を使用した HeLa 細胞のウェスタン ブロット分析。

